

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果から（我孫子第二小）

1. 全国学力・学習状況調査の結果について

<国語>

○「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は、全国平均とほぼ同じである。

▲漢字を文中で正しく使う、目的や意図、条件に応じて文章にするなどの「書くこと」に関する問いや、主語・述語・修飾語を正しく使うなどの「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題の正答率は低い。

<算数>

○他の領域と比べると、「変化と関係」「データの活用」に関する問題の正答率はやや高い。また、選択式の問題の正答率はやや高い。

▲「図形」「数と計算」に関する問題の正答率は低い。また、記述式の問題の正答率が低い。

<児童質問紙> ○→全国平均を上回った項目 ▲→全国平均を下回った項目

○朝食を毎日食べている。 ○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。

→上記の質問で肯定的な回答をした児童の方が正答率が高くなっている。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ○国語や算数の勉強は大切だと思う。

▲毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ▲自分には、良いところがある。

▲将来の夢や目標を持っている。 ▲学校の授業以外の1日あたりの学習時間

2. 成果と課題に対する今後の取組について

<成果>

- ・国語の「話すこと・聞くこと」に関しては、少人数による話し合いや1分間スピーチなどの意図的な対話・発表の場の設定、話す・聞く態度への指導の積み重ねの成果と考えられる。
- ・算数の「変化と関係」「データの活用」に関しては、「速さ」「割合」「グラフ」などに関する効果的な指導、「式の意味」や「データの特徴」などを問う場面の設定が功を奏したと思われる。
- ・児童質問紙の結果から、これまでの学校や家庭での指導、支援の積み重ねにより、「規範意識」「国語・算数への関心等」の高まりが見られる。

<課題と今後の取組について>

- ・国語に関しては、作文指導で教員が添削するなどして、主語・述語・修飾語を意識付けさせていく。学習のまとめや日記の宿題等、教師が書く場面を設定する。
- ・また、簡単な条件を提示して文章を書く経験を積み重ねる。必要に応じて、書き出しを例示する。
- ・ドリルや小テスト等による漢字の繰り返し指導の継続に加え、理解度の低い漢字に重点化して学習していく。
- ・算数に関しては、少人数指導担当（本校1名在籍）と連携し、算数科の指導の充実を図る。加えて、週1回の「算数タイム」（朝）を全校で実施し、算数の補充指導を行う。
- ・また、例題で解法の見通しをもたせ、類題を自力解決していく。三角形など平面図形の「底辺と高さの関係」や「量の保存性・加法性」「等分除・包含除の違い」「小数を用いた倍の意味」「日常生活の場面に即すこと」に着目できる問題にする。
- ・家庭学習のがんばりを認めたり、「e ライブラリアドバンス」を家庭学習として取り組んだりすることで、家庭での継続的な学習や基礎の定着を図る。
- ・今後も児童が自己肯定感をもって生活・学習できるよう、児童への声かけ、頑張りの称賛、学習過程の紹介などを日々意識して行っていく。